

西部清掃工場 来場者20万人

鴨江小児童に記念品

浜松市西部清掃工場が二十五日、二〇〇九年二月の運営開始から約十二年で来場者一十万人を達成した。同日、隣接する環境啓発施設「えこはま」で式典があり、社会見学で来場した鴨江小(中区)の四年生四十七人に記念品を贈った。

西部工場の本年度の燃えるごみ予定処理量は十三万六千ト。市内の半分のごみが集まるという。

毎年、同市と湖西市の約



20万人の来場者になった鴨江小の児童ら＝浜松市西区の市西部清掃工場

七十の小学校の児童が訪れ、ごみ政策に対して理解を深めている。

鴨江小の児童たちは、燃

えるごみの処理工程をDVDで視聴した後、工場が稼働している様子を見学。3R(リデュース・リユース・リサイクル)について、自主的に取り組めることを考えた。

工場の運営管理を市から受託している「浜松グリーンウェーブ」の平井公人社長は「皆さんが将来の3Rの発信者になって」、清水順一朗工場長は「たくさん見て、感じて、どうすればごみを減らすことができるか考えてほしい」とそれぞれ呼び掛けた。

(山手涼馬)